

世田谷村日記

石山修武

十二月十六日 土

昨日まで三日間は大学で過した。来客会議学生とのミーティング相談で一日が暮れる。大学での教師たちとの会議が一番不可解で無駄なもののように思う。会議では何も決定されずに、会議が終了してから、何処かで何かが決められている。大学の困難さの第一は教師の品性人格の問題にあるのではないか。東京ではやはり最良の資質は事業家企業家への径に流れていかざるを得ないのだろう。私立大学は企業でもあるのだから、今のママの教師像の集合では未来はおぼつかないだろう。

大学院ゼミ研究室ミーティングを通して痛感させられるのは、モノを作る事への非力と情報を扱う事への関心、あるいは偏芯である。誰もが論文報告書の類をまとめるのは上手だが、設計デザインは下手だ。これはどうした事か。

帰宅したら、台北からイフエイ・チャンが来ていて、四日程家に滞在するらしい。台湾のデベロパーで働いているのだが、

イェール大学大学院で学んだ事は恐らく生かせていないのだろう。私のところで働いた人間達の中でも最優秀の部類に入る人材だが、人生は簡単ではない。有能な人間程実は生き難く、無能な人間程生きやすいのが現実なのだ。しばらく今の職場で働いて、

再びアメリカへ戻り、ロースクールに再入学、転職を企てるとう。三十六才になったと言うから、そろそろ自分の径を決めるラストチャンスだろう。明日は長女がアメリカから帰るから、二人で色々相談すればよらしい。しかし、ニューヘブンを会ってから十年イフエイも大人になっているのがおかしではないか。当時イェールの大学院に在籍していた学生達は今頃どうなっているやら。